

福島県立医科大学 大学医師会会報 2024.11.20 No.175

* 巻頭言



国際的な人材育成の プラットフォーム

ハーバード公衆衛生大学院
国際保健・人口学講座
武見太郎国際地域保健教授
武見国際保健プログラム
主任教授
福島県立医科大学総合科学教育研究センター
特任教授 後藤 あや

ハーバード公衆衛生大学院に2024（令和6）年1月1日に着任して、あと2か月ほどで1年が経過します。修士課程の学生の頃から四半世紀にわたり指導いただいているマイケル・ライシュ名誉教授の後任として、国際保健・人口学講座の武見太郎国際地域保健教授、そして武見国際保健プログラム主任教授を拝命しました。福島県立医科大学でも特任教授として研究室を維持できていることが、福島とボストンの橋渡しをする上で重要な土台となっています。ボストンでの私の役割は、国際的な研究を促進する学術のプラットフォームの発展的な維持と考えています。

武見国際保健プログラムは武見太郎元日本医師会長の功績を称え、ハーバード大学と日本医師会が連携して、医療資源の開発と配分を考える学術の場として、同大学公衆衛生大学院に1983（昭和58）年に設立されました。このプログラムの特徴は、第一に、世界各国の中堅の保健医療分野の専門家を対象としている点です。これまでに世界62か国から330人の武見フェローが輩出されました。彼らは各国の大学、研究所、政府保健機関、国際機関などに所属して、国際保健の第一線で活躍しています。日本人については医師会を通じて、医師だけでなく多様な専門性（医学、看護学、栄養学、経済学、政策学、社会学、生命倫理学など）を持ったフェローを募集しており、毎年2人がプログラムに参加しています。第二の特徴は、以下7つの運営指針です：研究重視、政策志向、学際的視点、相互尊

重、共同体意識、個人の保障と能力開発。これらを有機的につなげると、図1のようになると考えています。中でも個々のフェローの自由の保障は大切で、日々の忙しい業務から離れて、新しい知識や技術を学んで、自身の専門性や研究についてじっくりと考察する時間と場を提供します。これが能動的な能力開発につながります。そして、同期フェローがお互いの専門性を尊重した討論を重ねることにより、共同体意識が高まり、新たな研究が生まれます。さらにこの集団—Communityには、政策志向ではあるけれど、地域住民を中心に据えて、地域に根差した活動を自国に戻ってしてもらいたいという願いも込められています。

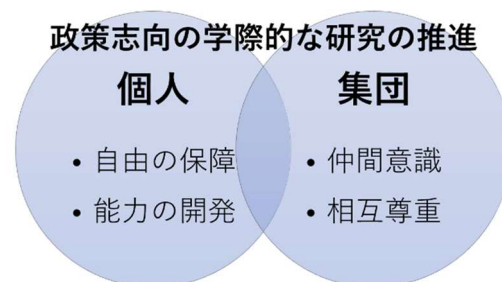


図1. 武見国際保健プログラムの指針

次にご紹介したいのが、2025（令和7年）年1月に開講するFukushima Field Trip Courseです。これはハーバード公衆衛生大学院の学生15人が、福島県内で1か月間学び単位認定される大学院の正式な実地研修です。学生には、原発事故の後に地域社会を再建してきた福島の「より良い復興」の取り組みを学んでもらいたく、他の国の研修名には国名が付いているのですが、あえて県名であるFukushimaを掲げました。この研修は、福島県立医科大学、竹田健康財団、三菱商事デジタルイノベーションセンターが受け入れ機関として、ハーバード大学ライシャワー日本研究所の協力を得て実施します。研修前半は過去・現在の医療問題に、後半は現在・将来の地域開発に焦点を当てた、講義と施設訪問が予定されています（表1）。

	研修前半	研修後半
主な滞在場所	福島市	会津若松市
主な受け入れ機関	福島県立医科大学	竹田健康財団、三菱商事デジタルイノベーションセンター
視察地域	中通り、浜通り	会津
学習内容	原発事故後の対応と医学的課題	原発事故後の地域開発と未来

表1. Fukushima Field Trip Course の構成

学生は3つのグループに分かれて、「リスクコミュニケーション」、「健康モニタリング」、「除染と環境」のいずれかの課題について学び、教員や地域の専門家の指導の下、地域のニーズに沿った実現可能で科学的根拠に基づき、かつ革新的な復興のための戦略を提案する発表を研修の最後に行います。

2025（令和7）年秋には、日本の保健医療従事者を対象とした、ハーバード公衆衛生大学院で国際地域保健について学ぶ1週間の短期研修を開講予定です。約20人を上限として、講義と課題を全てこなすと大学院から修了書が発行されます。講義は日本語または通訳付きです。英語の資料を読み、英語でレポートを書くことは求められますが、これはAI翻訳の力で何とかできるはずで、語学が壁となることなく、高度な専門性が身に着く研修の実施を目指しています。

さらに2026（令和8）年春には、ハーバード公衆衛生大学院の学生向けに、日本の母子保健をテーマとした国際地域保健学のコースも開講できるよう企画を始めているところです。全ての企画が順調にいくか不明な点も多いですが、このように宣言しておけば実現できるはずと願っています。どの人材育成においても、参加者の自由な発想が広がるような場の提供をすることを目標にしています。

※武見国際保健プログラムへの日本国内からの応募については、日本医師会のホームページをご覧ください。
11月末（毎年募集します）が締め切りです。

https://www.med.or.jp/doctor/international/takemi_program/011702.html

※公衆衛生分野の国際的な人材育成を行う企画へのお問い合わせ、そして、これらをより効果的に実施するためのご寄付を受け付けております。

agoto@fmu.ac.jp

* 学内・教授会情報



～教授就任の抱負～

医学部附属生体情報伝達研究所
生体物質研究部門

主任教授 田中 紀子

2024（令和6）年10月1日付で福島県立医科大学医学部附属生体情報伝達研究所生体物質研究部門の研究

主任教授を拝命いたしました田中紀子（たなか のりこ）と申します。

私は東京で生まれ育ち、東京大学理科I類を経て同大学医学部健康科学・看護学科に進学いたしました。その際に本学とのご縁を紡いでいただいた、福島市出身の大橋靖雄教授と出会い、「生物統計学」という学術領域を学ばせていただく機会に恵まれました。卒業論文では、ヤクルト飲料に膀胱がんの予防効果がある、という仮説を検証するための症例対照研究で用いる、思い出し法による飲料摂取の自記式調査票の信頼性と妥当性を検討する研究をテーマとさせていただきました。基本的には統計学の研究室であり、諸先輩方は難しい数式と最新の計算機を扱っていらっしやったので、自分もそのようなテーマが与えられると思っていただけない、実際の医学研究のデータが与えられ非常に驚いたことを覚えています。さらに、大橋教授は自分と同じ理科I類を経て同大学工学部計数工学科のご出身でいらっしやったので、その先生が膀胱がんと乳酸菌の予防効果に関連する医学分野の論文を100本以上集めていらっしや「これ、来週までに全部読んでおいて」と段ボールの箱ごと渡されたときの衝撃は忘れられません。その後統計学の魅力に取りつかれた私は、修士・博士課程と大橋教授のもとで研鑽を積ませていただきましたが、基本的に先生は修士以上の学生にテーマを与えず、自ら手探りで見つけることを望んでおられたので、卒業論文のテーマとは全く異なる遺伝学的情報の疾患発症への寄与を検討するための統計学的方法論の研究を、同大学院国際保健学専攻人類遺伝学教室の先生方にもご指導いただきながら行うことにしました。そして現在でも同じテーマで研究を続けているわけですが、学部4年生の時に、数理統計学的方法論の応用から研究テーマを探るのではなく、医学で課題となっている問題点から統計学的方法論の研究のテーマを見つけることの大切さを学べた経験が今に生きているように感じています。

博士の学位取得後、同大学院医学系研究科、ハーバード大学公衆衛生大学院生物統計学専攻を経て、ピッツバーグ大学公衆衛生大学院生物統計学専攻およびNSABP（National Surgical Adjuvant Breast and Bowel Project）で乳がん或いは大腸がん術中に切除されたがん細胞でのDNA突然変異やmRNA、miRNAの発現量と臨床的予後との関連を分析するための統計学的方法論の研究に携わる機会をいただき、治療予後予測モデル構築には最新の統計学的手法より時間をかけて綿密に計画された研究計画と高い精度の測定系が非常に重要であることを実感させていただきました。そのため2012

(平成 24) 年に国立国際医療研究センター生物統計研究室長として着任するため帰国してから、生体情報のあらゆる測定方法・プロセスの精度管理に関する方法の研究に重点を置くようになりました。センター内で実施される臨床研究の基盤整備に尽力するとともに、遺伝学的情報のうち特に測定が困難とされる、DNA の長鎖繰り返し配列構造多型 (CNV : コピー数多型) の測定方法とその構造の生体内システム、特にがんと循環器疾患発症への寄与についての研究に着手しました。

本学着任後も現在取り組んでいる計量生物学的な研究内容を発展させるとともに、そこから進展した長鎖 CNV の生体内での役割に関する分子遺伝学的研究に取り組んでいきたいと考えています。そして、医療・医学における課題から仮説を構築し、研究するということが必要となり、それに取り組むこと、特に測ることの難しさと大切さを学生の方々に伝えることができれば幸いです。今後も何卒よろしくお願い申し上げます。

* 大学医師会案内・報告

～第 14 回光が丘カップソフトボール大会開催報告～

基礎合同チーム

解剖・組織学講座 田村 直輝

令和 6 年 10 月 26 日 (土) に福島県立医科大学医師会主催のもと、第 14 回光が丘カップソフトボール大会が開催されました。今大会は 9 チーム、計 125 名のご参加をいただき、大学野球場・大学陸上競技場の 2 会場で開催いたしました。また、開催時期に関しては、昨年と同様に今夏も記録的な猛暑であったことから夏季での開催が難しいと判断して 10 月下旬に開催する運びとなりました。幸いなことに、大会当日は穏やかな晴天でグラウンド状態もとても良く、爽快な青空の下でソフトボールを存分に楽しむことができたと思います。

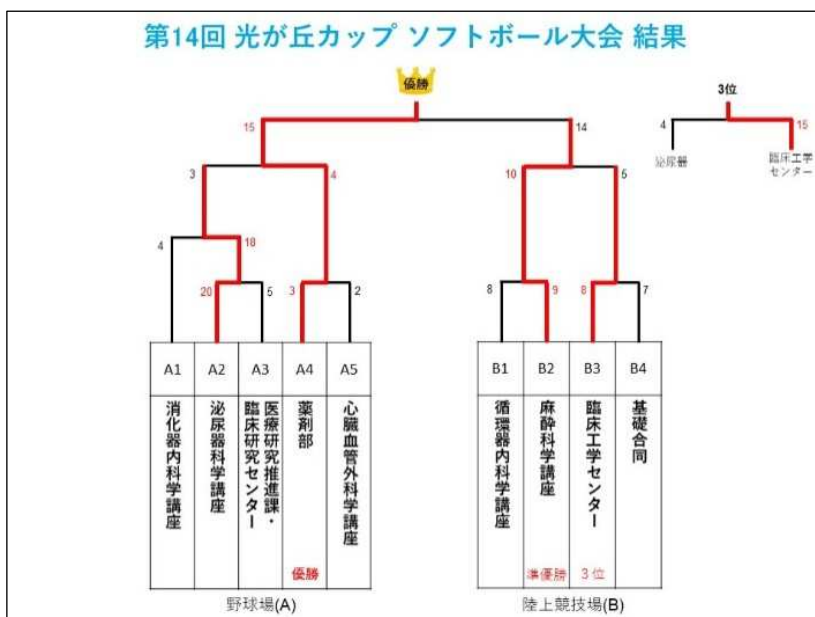
大会自体は実行委員の皆様のご協力できずには開催することができました。一つだけ問題となったのは、ソフトボール公式審判団の方々が当日に別の公式大会があったために参加できなかったことです。近年、公式審判団の高齢化で審判員数が減少しており、また 10 月などの比較的涼しい時期に大会が集中してしまっていることがこのような事態になってしまった原因と考えられます。今後もこの状況が続くことが想定され

るため、来年度以降は事前に公式審判団と協議した上で大会日程を決定した方が良いと思われます。

本大会の試合はどれも見ごたえのある試合ばかりで、9 試合中 5 試合が 1 点差という非常に白熱した大会となりました (参照 : 右図の大会結果)。特に、決勝戦は薬剤部がサヨナラで優勝するという非常に劇的な展開となりました。主な結果は、優勝 : 薬剤部、準優勝 : 麻酔科学講座、第 3 位 : 臨床工学センターとなりました。残念なことに、大会中に 1 名の怪我人が出てしまいました。事前にスポーツ保険へ加入していたため補償はされますが、怪我された方がいち早くご回復されることを心よりお祈りします。

コロナ禍以降の光が丘カップは昨年度、本年度ともに 9 チームの参加でした。コロナ禍前の最後の大会 (第 12 回大会) の参加が 16 チームであったことから、まだ以前のような活気を取り戻せていないのが現状です。光が丘カップの目的の 1 つとして、スポーツを通じた学内連携の促進が挙げられます。本会はコロナ禍以降に減少してしまった所属内または所属間の対面・対話のとても有意義な場であると考えています。練習や試合を通して様々な人々と活発なコミュニケーションを図り、学内の連携をより加速していただければと思います。来年度以降は多くのチームが参加されることを、心よりお願い申し上げます。

最後に、本大会の企画・運営に際しまして、大学医師会様、各チーム実行委員の皆様、全ての参加者の皆様には多大なご協力・ご支援をいただき、大変お世話になりました。この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。



* 病院内の動き（10・11月）

◆福島県立医科大学附属病院の再整備について◆

附属病院の病院棟（きぼう棟等）は竣工から37年が経過し、老朽化や狭隘化などが課題となっております。

このため、新病院棟の建設を含めた再整備の検討を重ね、今般、再整備に係る基本的な考えや方向性を示した「福島県立医科大学附属病院再整備基本構想」を策定いたしました。

基本構想においては、「環境の変化に適応し進化する大学病院」をコンセプトに掲げ、「医療提供」、「教育・研究」、「病院経営」の3つの視点から、施設整備方針を定めております。（図1）

また、将来患者推計や医療ニーズを見据え、最適な病床数や外来患者数、手術室数のほか、建設候補地や開院までの整備スケジュールを想定しております。

（図2）

今後は、当院に求められる医療機能・役割、患者・医療従事者・学生等の利便性等を踏まえて、基本計画の検討を進めてまいります。

なお、基本構想は以下のホームページに掲載しております。

【HPアドレス】

<https://www.fmu.ac.jp/byoin/new/saiseibi/index.html>

一病院管理課一



図1. 施設整備方針コンセプト



図2. 施設整備概要・整備スケジュール等

* 新聞情報より

卒後臨床研修医122人

2025年度県内、過去最多

充足率は前年度比6.5%上昇

2025（令和7）年度から県内の20病院で卒業後臨床研修を受ける新人医師は122人（前年度比12人増）で過去最多となった。募集定員の計173人に占める割合（充足率）は70・5%となり、前年度より6・5%上昇した。日本医師会や医療研修推進財団などで構成する「医師臨床研修マッチング協議会」が24日、発表した。

研修先となる県内20病院の内定状況は「表」の通り。9月下旬の中間報告時の第1希望者106人から16人増加した。13病院で定員に達した。内定者が100人を超えるのは5年連続。充足率は全国平均の84・5%を14・0%下回った。

県医療人材対策室の担当者「臨床研修医は本県への医師定着につながる。定員を満たしていない病院と連携してより多くの研修医を確保できるように対応したい」としている。

今後の調整次第で最終的な研修医の人数は変動する可能性がある。

県内の病院ごとの内定状況

病 院 名	プログラム名	募集定員	内定者
福島医大付属病院	臨床研修A	27	3
	臨床研修B	7	0
	臨床研修C	7	0
	臨床研修D	4	0
大原綜合病院	臨床研修	8	8
太田西ノ内病院	医師臨床研修	14	14
星総合病院	卒後臨床研修	7	7
竹田綜合病院	初期臨床研修	11	11
いわき市医療センター	卒後臨床研修	12	12
	総合診療重点	2	0
総合南東北病院	初期臨床研修	16	16
公立岩瀬病院	卒後臨床研修	4	3
福島労災病院	合同初期臨床研修	2	0
医療生協わたり病院	臨床研修	3	2
寿泉堂綜合病院	臨床研修	6	6
白河厚生総合病院	初期臨床研修	6	6
公立藤田総合病院	初期臨床研修	7	7
会津中央病院	臨床研修	5	5
福島医大津医療センター付属病院	臨床研修	4	2
済生会福島総合病院	卒後臨床研修	3	2
福島赤十字病院	臨床研修	8	8
公立相馬総合病院	初期臨床研修	3	3
南相馬市立総合病院	卒後臨床研修	4	4
常磐病院	初期臨床研修	3	3

（医師臨床研修マッチング協議会まとめ）

[2024(令和6)年10月25日(金) 福島民報新聞]

* 学内人事異動

異動事由	発令日	所属	職名	氏名	備考
(医学部等)					
退職	6.9.30	循環器内科学講座	准教授	八巻 尚洋	
退職	6.9.30	心臓血管外科学講座	准教授	牛島 智基	
退職	6.9.30	耳鼻咽喉科学講座	講師	野本 美香	
退職	6.9.30	麻酔科学講座	教授	黒澤 伸	
退職	6.9.30	放射線医学県民健康管理センター	講師	林 史和	
任期満了	6.9.30	外傷学講座	教授	寺本 司	満了退職
採用	6.10.1	外傷学講座	教授	高木 基行	任期（～R7.3.31）
採用	6.10.1	基盤連携型医療サービス共創学講座	准教授	谷田部 淳一	任期（～R9.7.31）、 兼務：腎臓高血圧内科学講座
採用	6.10.1	生体物質研究部門	教授	山口 紀子	生体物質研究部門研究 主任
昇任	6.10.1	循環器内科学講座	准教授	及川 雅啓	講師→、兼務：循環器 内科部長、先端的低侵襲センター副 部長
昇任	6.10.1	循環器内科学講座	講師	清水 竹史	助教→、兼務：循環器 内科
昇任	6.10.1	心臓血管外科学講座	准教授	高瀬 信弥	講師→、兼務：心臓血 管外科副部長、心臓血管センター副 部長、移植医療部
昇任	6.10.1	総合科学教育研究センター	准教授	小澤 亮	講師→、兼務：医学部
昇任	6.10.1	総合周産期母子医療センター	講師	前田 創	助教→、兼務：小児科学 講座、小児科、こども医療センター
兼務解除	6.10.1	消化器内科学講座	准教授	高木 忠之	兼務解除：消化器内科 副部長
兼務解除	6.10.1	呼吸器内科学講座	講師	齋藤 純平	兼務解除：医療安全管 理部副部長

兼務解除 6. 10. 1 小児腫瘍内科
准教授 **望月 一弘** 兼務解除：こども医療
センター副部長

兼務 6. 10. 1 循環器内科学講座
講師 **金城 貴士** 兼務：循環器内科副部
長

兼務 6. 10. 1 小児科学講座
教授 **郷 勇人** 兼務：こども医療センタ
ー部長

兼務 6. 10. 1 麻酔科学講座
教授 **井上 聡己** 兼務：麻酔・疼痛緩和
科部長、医療安全管理部

兼務 6. 10. 1 総合内科・総合診療学講座
講師 **菅家 智史** 兼務：総合内科副部長

兼務 6. 10. 1 ふたば救急総合医療支援センター
准教授 **小林 淳** 兼務：心臓血管センター
部長、材料部副部長

兼務 6. 10. 1 小児腫瘍内科
教授 **佐野 秀樹** 兼務：こども医療セン
ター副部長、兼務解除：こども医療
センター部長

退職 6. 10. 31 法人（役員）
副理事長（復興・国際担当） **挾間 章博**

退職 6. 10. 31 総合内科・臨床感染症学講座
講師 **安田 一行**

採用 6. 11. 1 糖尿病内分泌代謝内科・総合内科・
臨床感染症学講座
准教授 **田辺 隼人** 任期（～R7. 9. 30）

採用 6. 11. 1 総合内科・総合診療医センター
講師 **會田 哲朗** 任期（～R7. 3. 31）、兼
務：総合内科・総合診療学講座、血
液内科、総合内科

昇任 6. 11. 1 産科婦人科学講座
准教授 **菅沼 亮太** 講師→、兼務：生殖医
療センター部長、産科、婦人科、総
合周産期母子医療センター

兼務 6. 11. 1 糖尿病内分泌代謝内科学講座
教授 **島袋 充生** 兼務：糖尿病内分泌代
謝内科・総合内科・臨床感染症学講
座主任

兼務 6. 11. 1 総合内科・総合診療学講座
教授 **濱口 杉大** 兼務解除：総合内科・
臨床感染症学講座主任、兼務：糖尿
病内分泌代謝内科・総合内科・臨床
感染症学講座

組織改正 6. 11. 1 糖尿病内分泌代謝内科・総合内科・
臨床感染症学講座
教授 **山藤 栄一郎** 総合内科・臨床感染
症学講座→

* 大学医師会理事会報告

～ 第 257 回理事会議事録 ～

令和 6 年 10 月 7 日（月）に予定していた第 257 回理
事会は都合により中止いたしました。

[次回開催予定]

日時：令和 6 年 12 月 2 日（月）16 時 30 分から

場所：総合科学系研究棟（4 号館）

4 階 第 2 ゼミナール室

* 大学医師会共催の学術講演会案内

－ 第 25 回福島県周産期セミナー －

日時：令和 6 年 11 月 23 日（土）14:00～17:00

場所：福島市 福島県立医科大学講堂

[特別講演]

座長：福島県立医科大学医学部 産科婦人科学講座

主任教授 藤森 敬也 先生

演題：「双胎間輸血症候群の診断と治療

～内分泌環境から考える胎児・新生児管理～」

演者：東邦大学医学部 産科婦人科学講座

主任教授 中田 雅彦 先生

日医生涯教育講座取得単位：1 単位

カリキュラムコード：72（成長・発達の障害）

－ 福島県周術期栄養管理セミナー －

日時：令和 6 年 11 月 29 日（金）18:00～20:00

場所：福島市 キョウワグループ・テルサホール（福島テルサ）

[特別講演 I]

座長：福島県立医科大学医学部 肝胆膵・移植外科学講座

主任教授 丸橋 繁 先生

演題：「膵癌治療の現状と展望」

演者：奈良県立医科大学 消化器・総合外科学講座

教授 庄 雅之 先生

日医生涯教育講座取得単位：0.5 単位

カリキュラムコード：21（食欲不振）

[特別講演Ⅱ]

座長：福島県立医科大学医学部 消化管外科学講座

主任教授 河野 浩二 先生

演題：「上部消化器癌に対する最適治療を求めて」

演者：山梨大学医学部附属病院 外科学講座第1教室

教授 市川 大輔 先生

日医生涯教育講座取得単位：0.5 単位

カリキュラムコード：22（体重減少・るい瘦）

－ 第 27 回福島県小児循環器研究会 －

日時：令和 6 年 11 月 30 日（土）17:15～19:50

場所：福島市 コラッセふくしま

[特別講演]

座長：福島県立医科大学医学部

周産期・小児地域医療支援講座

教授 桃井 伸緒 先生

演題：「身近な心機能評価～小児の日常診療のなかで～」

演者：岩手医科大学付属病院 小児科学講座

准教授 齋木 宏文 先生

日医生涯教育講座取得単位：1 単位

カリキュラムコード：7（医療の質と安全）

*** 光が丘協議会だより**

【令和 6 年度臨床研修指導医講習会の開催について】

本年も下記により福島県立医科大学の主催で指導医講習会が開催されます（お申込みにつきましては別途ご案内済みです）。

会員施設におかれましては、所属の指導医となるべき医師の派遣をお願いいたします。

記

開催日時：令和 7 年 1 月 11 日（土）～12 日（日）

開催場所：福島県立医科大学（福島市光が丘 1）

受講資格：4 年以上の臨床経験を有する医師

（ただし、定員 40 名を超える場合は、臨床経験 7 年以上の医師を優先いたします。）

[問い合わせ先]

福島県立医科大学 教育研修支援課

研修支援係（医療人育成・支援センター）

電話：024-547-1712 FAX：024-547-1715

【第 57 回福島アドバンスド・コース（FACE）開催】

開催日時：令和 6 年 12 月 7 日（土）～8 日（日）

開催場所：緑風苑（福島県郡山市熱海町）

対象：臨床研修医、医学部生、指導医等

参加費：8,000 円（学生 5,000 円）

定員：30 名

内容：「ケースで学ぶ臨床推論」

メイン講師：群星沖縄臨床研修センター

徳田 安春 先生

申込締切：11 月 29 日（金）

[問い合わせ先]

福島県立医科大学 医療人育成・支援センター

電話：024-547-1047 FAX：024-547-1715

Email：cm-entry@fmu.ac.jp

－ 光が丘協議会 －

福島県立医科大学医師会

発行者：小島祥敬

広報委員：大谷晃司・鈴木弘行

事務局：阿部久夫

〒960-1295 福島市光が丘 1 番地

TEL：024-547-1111 内線 4200

TEL/FAX：024-548-1650

メールアドレス：ishikai@fmu.ac.jp

HP：www.fmu.ac.jp/home/somu/ishikai/ishikai-index.htm

福島県立医科大学光が丘協議会

www.hikarigaoka-k.jp/